

< VI 展示研究報告 (4) >

平成30年度第3回企画展  
「創職 (ライフワーク) の世界Ⅱ - 和 -」

川本 利恵\*

はじめに

平成30(2018)年9月25日(火)から10月26日(金)の期間、企画展「創職 (ライフワーク) の世界Ⅱ - 和 -」が開催された。

昨年度、光塩会との共催で始まった「創職 (ライフワーク) の世界」展の第2弾となる。「創職 (ライフワーク)」とは、「創」(美の創造)と「職」(職人のように技術を追求する)を組み合わせ「ライフワーク」と読ませる造語である。数年間はこの企画を続けていく計画なので、タイトルも継続していくことになった。

1. テーマの決定

3月22日(木)の打合せの際に、今年度は、5月に衣装関係の企画展を計画していたため、夏季休業明けから特別展までの期間に会期を移動したい旨を、光塩会の渉外担当西村厚子氏へ伝え、了承を得た。また、4名が候補に上がっており、その中で2名に依頼してもらうことにした。作者との直接の対応は西村氏に引き続き担当してもらうことになり、この後の連絡はメールで行うことになった。

7月に入り、作品のタイトル、制作年、大きさ、作業予定日を聞いてもらうためにメールをしたところ、予定していた2名が参加できないとの連絡があり、急遽他の候補者から作品を募ることになった。西村氏にご足労いただき、書家の栗山久美代氏と竹内和子氏、江戸型彫の佐野紀子氏、日本刺繍の石橋薫子氏、ガラス器の古川有為子氏が参加して下さることになった。タイトルは第2弾の「Ⅱ」を入れ、日本文化に根差した作品ばかりということで、副題を「和」とした。

2. 印刷物

今回は参加者が決定するまで時間がかかってしまったため、チラシの形式でリストを作成することにし、業者には依頼せず自作した。A4判の表裏(写真1、2)の2ページとなった。また、学芸員資格課程の「博物

館実習」で実習生による「展示実習展」が壁面を利用して開催されていたため、同時開催という体裁をとった。

ポスターの代わりにチラシの表紙を大判コピー機で印刷し、入口の扉やボードにはり、A4・A3判で印刷したものを校内の掲示板に貼って学内者へ向けての広報とした。



写真1 チラシ表



写真2 チラシ裏

\*川本 利恵 (かわもと りえ) 平成30年度生活文化博物館学芸員

### 3. 展示構成

作品総数が少ないため、展示室を中央で区切る形で展示ケースを配置した。額装された書2点(写真3、4)を入口を入れて左側の壁面に掛け、江戸型彫は展示ケースのガラス面に網を設置してそこに掛けることにし、日本刺繍が施された訪問着等とガラス器は、展示ケースの中へ飾ることにした。作者それぞれの略歴パネルとセリフの吹き出しのような形式で作品制作の心構えパネルを置くことにした。

### 4. 展示作業

展示作業については当館に任されたので、前の展示の片付けと展示ケースを移動して、事前に宅配便で送っていただいたそれぞれの作品を配置していった。窓側の展示ケース3台に網を掛けそこに額装の作品を掛けた。佐野氏は、以前当館へ2点の作品を寄贈して

いただいております、今回そのうちの1点を参考作品としていっしょに飾った。もう一つ型彫を入れ込んだランプシェード(写真5)があったため、これは幅が半分のケース1台に飾り、点灯するように設定した。ランプシェードのケースから直角に大きなケースを置き、そこに訪問着(写真6)を衣桁に掛けて入れ、帯とバッグはその隣の幅半分のケースへ飾り、ガラス器(写真7)は通常のケース1台に2点を置いた。

その後は、パネルやキョプション類を配置し、25日(火)の開幕となった。

閉幕後、佐野氏の作品はKVA祭(大学祭)に出展されるので、それまで当館で保管することになった。竹内氏の作品は寄贈して下さることになったため当館へ残し、他の方の作品はそれぞれ梱包し、宅配便で搬出した。

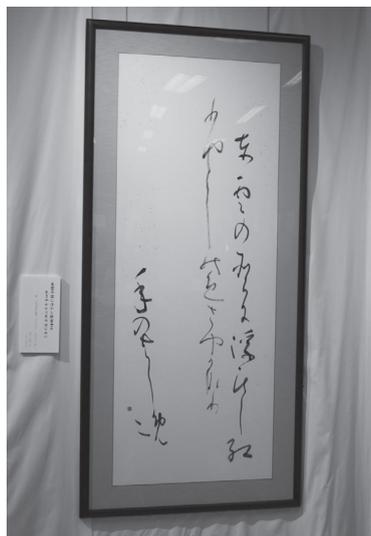


写真3 かな書



写真4 一字書



写真5 ランプシェード



写真6 訪問着



写真7 花瓶

## おわりに

今回も急なことにもかかわらず、技術的にも美的にもレベルの高い作品を出展していただいた。会期中にはオープンキャンパスもあり、多彩な活躍をされている卒業生がいることを知っていただく機会となった。

また、在校生にとっても今後の進路の参考になったのではないかと思う。

最後になりましたが、出展者および関係者のご協力に深く感謝申し上げます。

## ※展示資料リスト

タイトル	年代	作者	寸法 (cm)
「東雲の空に浮びし 紅富士の 色さやかなり 年のはじめに」	不詳	歌：三笠宮崇仁親王 書：栗山 久美代	151 × 59
「飛」	平成30 (2018) 年	竹内 和子	133 × 103
「変わり立涌」	平成15 (2003) 年	佐野 紀子	35.3 × 48
「撫子」	平成15 (2003) 年	佐野 紀子	63.2 × 48
「波に鶴」	平成 9 (1997) 年	佐野 紀子	45 × 60
ランプシェード 「波に鶴」	平成 9 (1997) 年	佐野 紀子	45 × 13.5 × 13.5
訪問着	平成30 (2018) 年	刺繍：石橋 薫子	丈164.5 衿68.3 × 袖53
名古屋帯	平成30 (2018) 年	刺繍：石橋 薫子	幅30.5
バッグ	平成30 (2018) 年	刺繍：石橋 薫子	24.5 × 24 × 10
「夏日」	平成30 (2018) 年	古川 有為子	8 × 径29
「カラー」	平成30 (2018) 年	古川 有為子	33 × 径15

## 参考

タイトル	年代	作者	寸法 (cm)
「伐折羅大将」	昭和60年代 (1985-1983)	矢田 勇	90 × 45